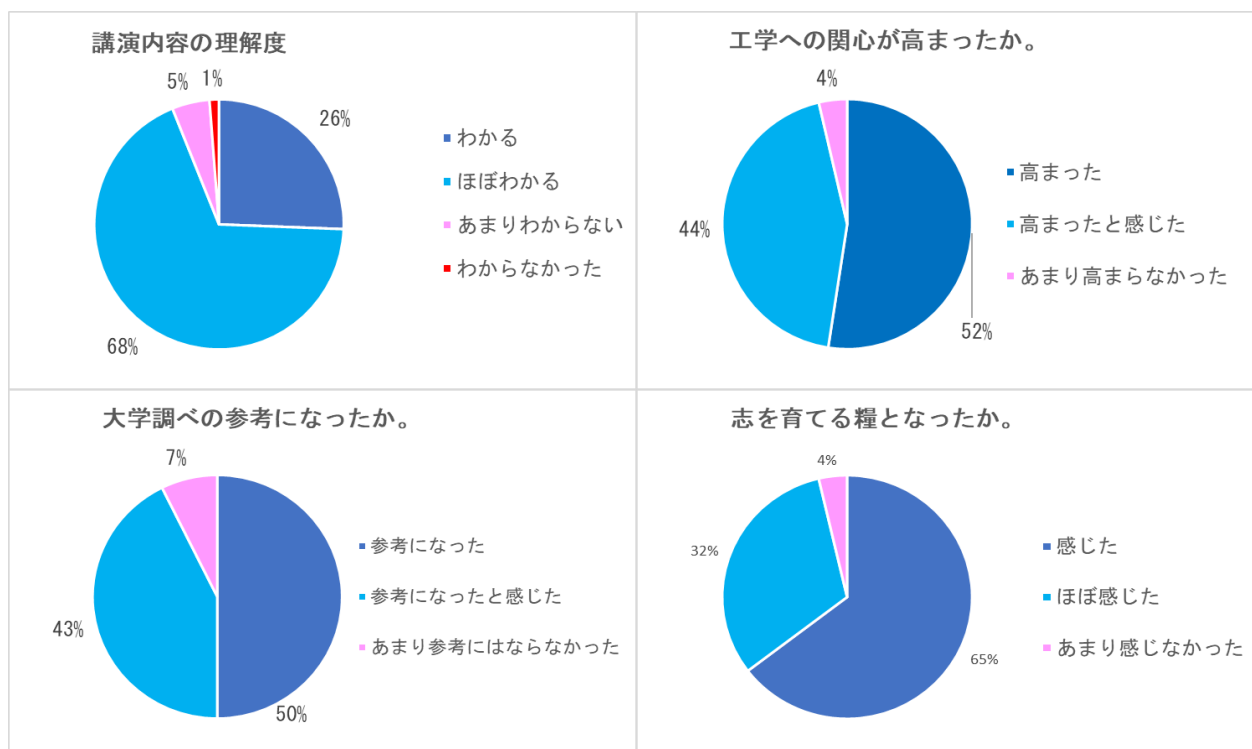


## visionary walker 育成事業理数科第1・2学年講演会における事後調査

- 1 日 時 令和3年7月8日（木）午前9時から午前11時00分まで
- 2 場 所 静岡県立浜松南高等学校
- 3 対 象 者 理数科1・2年生82名
- 4 講 師 国立大学法人静岡大学 工学部長 喜多 隆介 教授
- 5 研修の目標 「高温超電導技術とその応用」を聴いて工学への関心を高めるとともに大学教育で学ぶ意義を考える。
- 6 依頼内容 ・「高温超電導技術とその応用」についての説明に基づき、工学への関心が高める。  
・工学部での学びに触れ、大学調べに参考とする。
- 7 事後調査



☆どの項目もほぼ約9割5分が肯定的な評価であり、大変有効性の高い講演と評価する。理数科という特殊性に応じた上で、有用性(志の糧)感が高い点は特に有意義と評価する。

### ○生徒の代表的若しくは特徴的な記述意見

- ・超電導技術の普及には、量産できる超伝導体の開発や冷却材を安価なものにしないといけないため時間がかかると思った。
- ・興味や関心を持ち、それらを深く追究することが大切だと考えた。
- ・大学は社会に貢献できる場ということが参考になった。
- ・限界はなく、自分が行こうと思えばどこまでも行けるんだと将来に対してやる気を持ちました。
- ・限界をきめて諦めてるのは自分だと知った。どんなことにも限界があると決めつけずに目標を高くして挑戦することこそ、研究への心構えだと学んだ。